

霧ヶ峰高原林野火災の植生等への影響調査について

環境保全研究所

1 焼失範囲の植生等の概要

- ・ ススキ、ササが優占し、レンゲツツジやニッコウキスゲ等が開花する二次草原で、草原性の昆虫・鳥類・ニホンジカ等が生息・繁殖
- ・ 火災発生時には、ニッコウキスゲを含む多くの草本植物は展葉前で、鎮火後に展葉・成長

2 影響調査

【調査内容（予定）】

植 物	植生の回復状況 (5~10月)	衛星画像等を利用し植被回復を経過観察
	草原植物の生育状況 (6~8月)	焼失範囲の内外に植生調査区を設定し、 焼損状況、開花状況等をドローン空撮及び 現地調査
動 物	草原性鳥類の繁殖状況 (5~7月)	焼失範囲の内外で生息状況を調査
	チョウ類等の訪花昆虫 (6~8月)	植生調査区等で飛来状況を調査
	ニホンジカの分布動向 (5~6月、10月)	ライトセンサス、赤外センサーカメラ等 により焼失範囲の内外で生息状況を調査

